

金沢学院大学大学院

2025 (令和 7) 年度 入学者選抜試験問題 (Ⅱ期)

2025 年 2 月 22 日 (土) 実施

人文学研究科心理学専攻
修士課程

小論文

注意事項

1. 問題冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
2. 解答は、解答用紙（提出用）に書きなさい。
3. 問題冊子・解答用紙（提出用）・下書き用紙に受験番号・氏名を記入しなさい。
4. 試験終了後、問題冊子・解答用紙（提出用）・下書き用紙を回収します。

受験番号	
氏 名	

次の問 1 ～ 4 について、すべてに解答しなさい。

問 1

急性ストレス障害（ASD）について説明し，その上で，PTSD との違いについて説明しなさい（全体で 250 字程度）。

問 2

「合理的配慮」について，後の問い①，②に答えなさい。

- ①合理的配慮の提供の義務について記載された法律名を示しながら，合理的配慮について説明しなさい（150 字程度）。
- ②教育現場で想定される合理的配慮の具体例を一つ書きなさい。なお，その際にはどのような障害を想定しているのかについても触れること。

問 3

「学習性無力感」について説明しなさい（200 字程度）。

問 4

大学院で臨床心理学を研究している A さんは、自身が考案した介入プログラムが抑うつ症状を軽減することを実証するため、以下のような研究計画を立案・実施した。

- ア) 抑うつ診断を受けて治療中である人たちを研究協力者として集め、標準化された抑うつ検査の尺度を用いて介入プログラム実施前の抑うつ度を測定する
- イ) 研究協力者全員に、介入プログラムを実施する
- ウ) 介入プログラム終了後に、同じ抑うつ検査の尺度を用いて研究協力者の抑うつ度を測定する

この手続きを通して得られたデータにおいて、介入プログラム実施前の抑うつ度の平均は 17.8 点、実施後の抑うつ度の平均は 17.3 点であった。以上の情報を踏まえた上で、後の問い①～③に答えなさい。

- ①得られたデータに基づいて介入プログラムの効果について検討するため、Aさんは「介入プログラム実施前の抑うつ度の得点」と「介入プログラム実施後の抑うつ度の得点」を用いて、対応のある t 検定を行うことにした。この検定の帰無仮説はどのようなものになるかを述べなさい。
- ②Aさんが上記の検定を行ったところ、 p 値が 0.024 であるという結果が得られた。有意水準 5% で判断を行うとき、この結果から介入プログラムが抑うつ症状に対して与える効果について導かれる統計学的な解釈を述べなさい。
- ③この研究で使用した抑うつ度を測定する尺度の得点は、16～19 点の範囲であれば軽度から中程度の抑うつ状態であり、専門家の治療が必要であるという判定基準が定められている。これを踏まえた上で、Aさんの考案した介入プログラムが持つ臨床的な実用性について論じなさい。